



# 梅島小だより

「怒られるからやめなさい」

校長 近津 勉

以前、バスに乗った時にあった出来事です。

子ども(就学前の幼児くらいでした)二人を連れた母親が乗車してきました。バスはそれほど混んでおらず、三人は後方の席に座りました。バスが発車してしばらくすると、母親はスマートフォンを取り出し画面に集中しました。一方子ども達は、お互いにふざけあい、だんだんエスカレートしてバスの車内で追いかっこを始めました。

すると、バスの運転手さんが、「お子様たち、危ないので座ってください。お母さん、注意してください。」と車内放送で声をかけたのです。母親は、「ちゃんと座りなさい!」と子ども達を叱ると、またスマートフォンの画面を見つめ始めました。

母親に注意された子供たちはしばらくはおとなしく座っていたのですが、数分もするとまた同じようにふざけ始めました。席を立ってお互いにちょっかいを出し合っていたので、私も注意しようと思ったその時、母親が子ども達に「ほら、座ってなさい!また、運転手さんに怒られるよ!」と言ったのです。その言い方に、なんとなく違和感を覚えたその時です。

バスの運転手さんが「私に怒られるからではありません。危ないから座ってください、とお願いをしているのです。」と、車内放送で言いました。母親は黙っていましたが、今度はスマートフォンをバッグにしまい、子ども達に声をかけながら座っていました。

つい、「〇〇に怒られるからやめなさい」という叱り方をしてしまいますが、それは、誰かに責任転嫁する叱り方です。つまり、「私は、あなたのことを悪いとは思っていないけど、〇〇さんが怒るから(怖いから)やめておきなさい。」というメッセージを送ってしまうことになります。

こうした叱り方を繰り返していると、子ども達の判断の基準は、「怒られるか怒られないか」という、外的な要因に依ってしまいます。社会のルールやマナーに照らして、適切な行動かどうか判断できる力を育ててあげたいですね。

## 産休代替の職員を紹介します

夏季休業中に、大家教諭(図工)、宇田川栄養士が産休に入りましたので、9月から産休代替の職員が勤務いたします。

○宮越 里紗 教諭:3年生以上の図工でご指導いただきます。

○小幡 愛 栄養士:給食の献立作りや食育の学習、委員会活動などでご指導いただきます。